

足利市歴史文化基本構想

平成22年度 中間報告



足 利 市

足利市歴史文化基本構想の構成(素案)

第1章 歴史文化基本構想策定の背景と目的

1. 歴史文化基本構想策定の背景と目的

2. 歴史文化基本構想の検討の進め方

- (1) 調査・検討の流れ
- (2) 調査・検討の実施体制

3. 上位・関連計画と歴史文化基本構想との関係

- (1) 足利市総合計画
- (2) 足利市都市計画マスタープラン

第2章 足利市の文化財の特性と関連文化財群

1. 足利市の文化財の総合把握

- (1) 文化財の捉え方
- (2) 指定文化財等の状況
- (3) 未指定文化財等の調査
 - ①文化財総合調査 ②民家調査 ③石造物調査
 - ④絵馬調査 ⑤近代化遺産調査 ⑥蔵調査
 - ⑦神社調査 ⑧市内名勝・庭園調査
 - ⑨市内小絵馬等民間信仰文化財調査
 - ⑩鏝阿寺資料調査 ⑪足利市織物技術調査
 - ⑫足利市内美術・工芸品調査 ⑬市内建造物調査
 - ⑭足利市内天然記念物調査

2. 足利市の文化財の特性

- (1) 足利市の文化財の特性把握にあたっての考え方
- (2) 足利の自然環境・地理的環境
- (3) 足利の歴史的変遷
- (4) 歴史的な視点から見た足利の文化の特性

3. 足利市の関連文化財群

- (1) 関連文化財群の設定の考え方
- (2) 関連文化財群のテーマ・ストーリーと価値
- (3) 各関連文化財群の内容

第3章 足利市の文化財の保存活用

1. 文化財の保存活用の現状と課題

- (1) 保存活用の現状
- (2) 保存活用の課題

2. 保存活用の基本的な考え方と方針

- (1) 足利市の文化財の保存活用についての基本的な考え方
- (2) 足利市の文化財の保存活用方針

* この項では、足利市における**全ての文化財**の保存活用についての考え方・方針を示します

3. 各関連文化財群の保存活用（保存活用計画）

* この項では、**関連文化財群**の保存活用についての考え方・方針を示します

4. 歴史文化保存活用区域

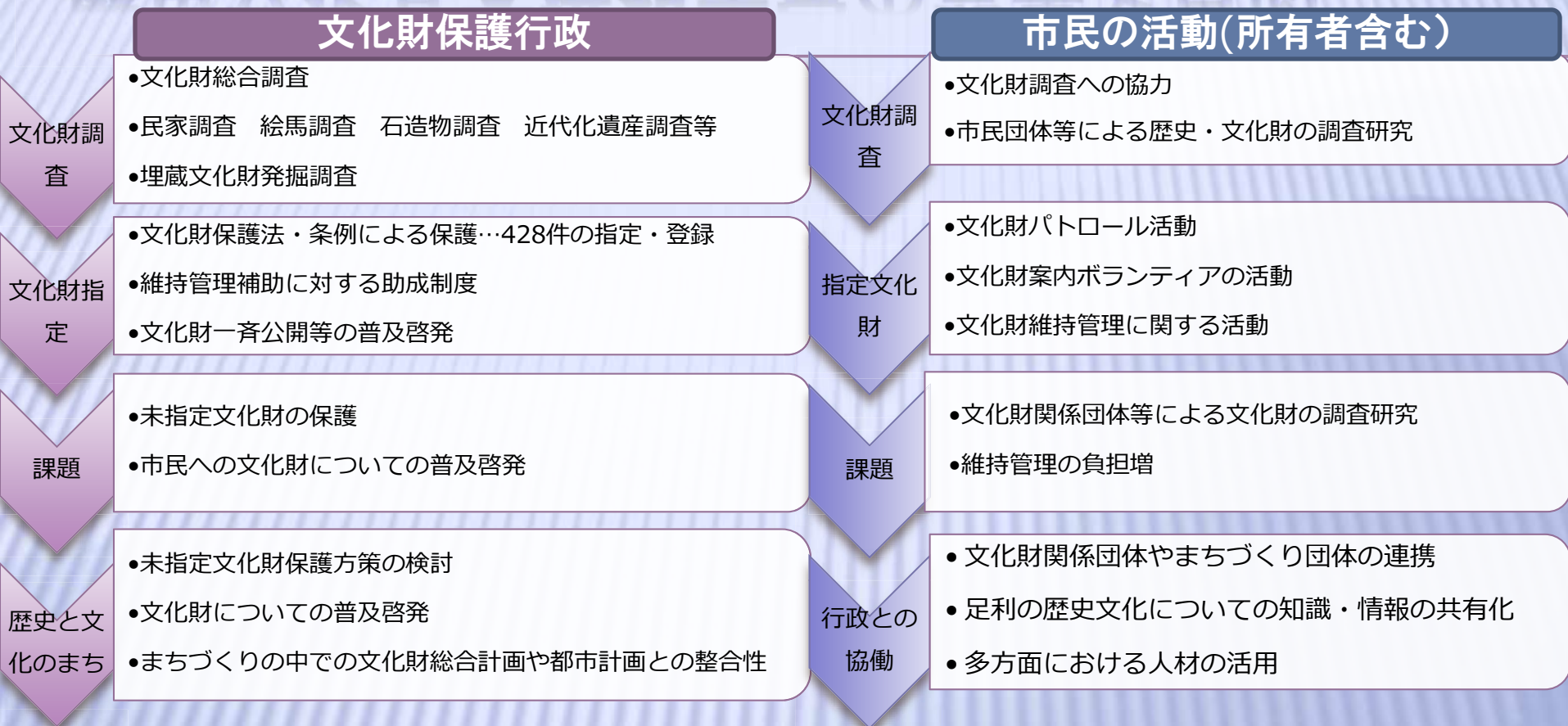
- (1) 歴史文化保存活用区域の考え方
- (2) 歴史文化保存活用区域の設定
- (3) 歴史文化保存活用区域の保存活用

* この項では、**歴史文化保存活用区域**の保存活用（特に整備関係）についての考え方・方針を示します

5. 保存活用の体制整備

第4章 今後の課題

歴史文化基本構想策定の背景と目的



歴史文化基本構想

関連文化財群の設定

歴史文化保存活用区域の設定

歴史文化保存活用計画の策定

目的

足利市の歴史文化を守り、将来に伝えるため文化財の活用をしたまちづくり

金利率の低下に伴う利差の狭小化

・足利の自然環境と地理的環境



- × 北には日光連山に連なる複雑で起伏に富んだ山々
- × 南には東京湾にまで広がる関東平野
- × 市域を貫く渡良瀬川
- × 山々の間を網羅する中小河川と谷底平野
- × 交通の要衝…東山道と駅家、例幣使街道、渡良瀬川の河岸
- × 両毛地域…県境にあって独自の文化圏・経済圏を形成

歴史的視点からみた足利の文化の特性



岩井山城跡

- × 関東平野の北西端に位置する足利市は、北に山並み、南に平野が広がり、その間を渡良瀬の清流が流れています。豊かな自然のめぐみの中で住みついた人々は、周辺地域と活発な交流を繰り返し、独自の文化を育みました。史跡藤本観音山古墳をはじめとする数多くの古墳がその痕を物語っています。古代になると奥州経営のための前進基地として、また都と奥州とを結ぶ東山道の要衝として駅家がつくられ、さらに発展しました。
- × 国学の遺制とも言われる足利学校は、中世になると日本国中最も大きく、有名な学校として西洋にまで喧伝されました。当地を本貫地とする足利氏は、京都に幕府を開き、天下統一を果しました。史跡足利氏宅跡（鏝阿寺）や史跡樺崎寺跡など、足利氏ゆかりの文化遺産が市内に多く遺されています。戦国時代には、長尾氏の拠点となり、足利城跡や岩井山城跡など多くの城館が造られました。

× 近世になると、新たに交通網が整備され、日光例幣使街道が通ると共に江戸を往復する舟運の河岸が造られました。活発な経済、文化交流の中、八木節や徳蔵寺五百羅漢像なども生まれました。幕末～明治時代には織物産業が隆盛し、昭和初期にかけて日本一の銘仙の生産地として知られました。古い街道沿いには柳田家など織物で栄えた商家や物外軒庭園等繁栄を物語る文化財が遺っています。パリやシカゴ万国博覧会への出品によって海外にも知られた田崎草雲は、画家としての業績はもちろん、足利の近代化を推進した人材を育てた功績もあります。織物産業繁栄の中で造られた近代化遺産も良質なものが遺されています。

× これら長い歴史の中で育まれた文化遺産は、各時代、各種類に及び、豊かな歴史資源があるまちとして平成12年には全国に先駆け「歴史都市宣言」を行い、平成19年度には「足利学校と足利氏の遺産」として世界遺産暫定一覧表候補への提案を行いました。



徳蔵寺五百羅漢像

関連文化財群(案)

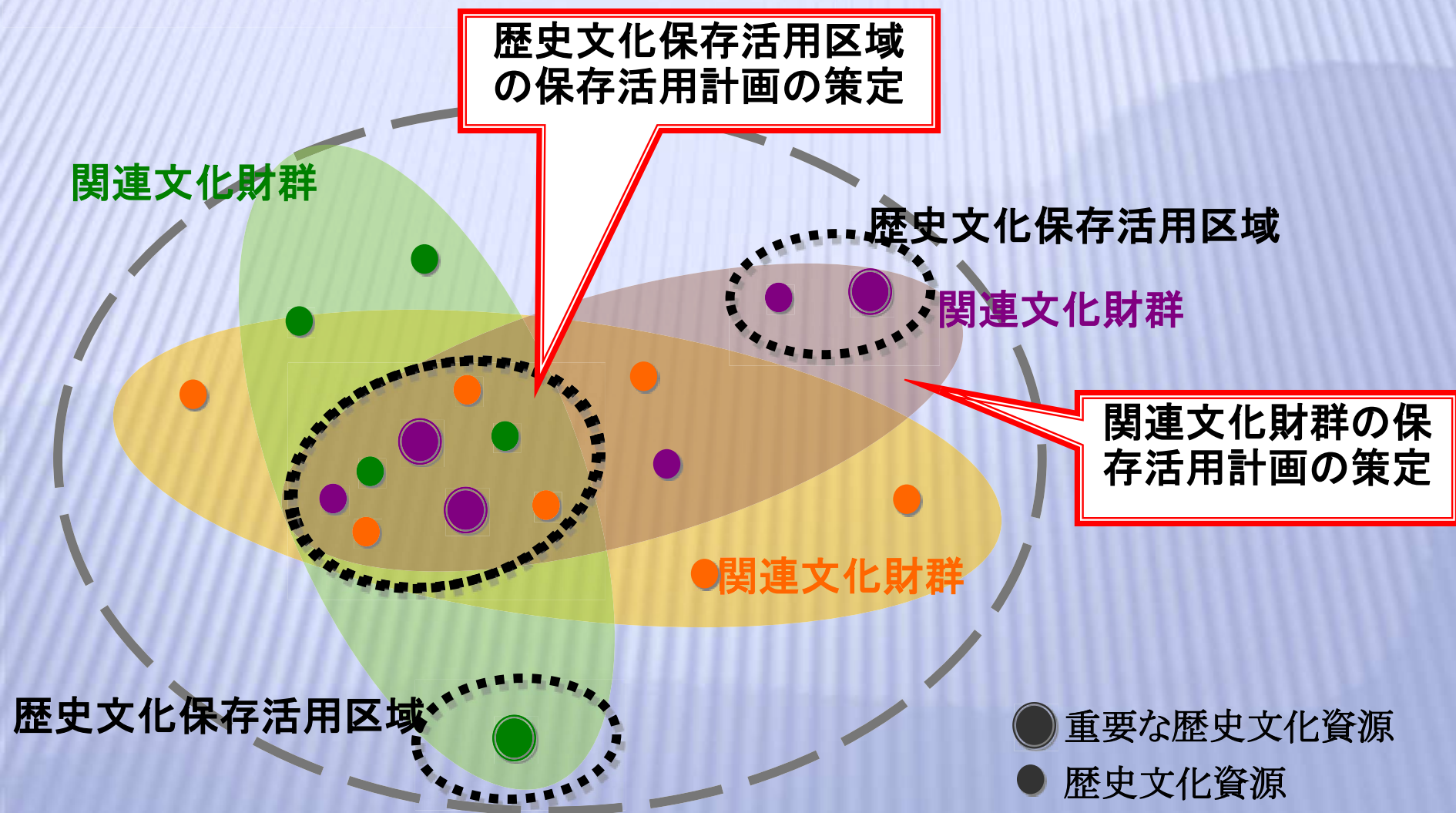
関連文化財群のテーマ

- ① 足利の風土を形づくる文化財
- ② 舟運・道の交通の要衝を示す文化財

- ③ 足利の中世を物語る文化財
- ④ まちの繁栄を導いた織物産業
- ⑤ 継承される祈りの形

テーマ	キーワード	ストーリー	主な関連文化財群
①②③④⑤	A 山・川・平野	豊かな自然と関わってきた人々の営みの物語	名草の巨石群と花崗岩の石切り場跡、縄文時代の遺跡、二ホンカワモズク自生地、渡良瀬川の治水と鉋毒被害
①②④	B 古墳	市内に残る数多くの古墳と古墳調査の物語	全国5位の大きさの前方後方墳・藤本観音山古墳、坪井正五郎による足利公園古墳の発掘調査、市内に残る1300基の古墳、古墳出土品、古墳時代の集落、生産遺跡、
①②	C 足利郡と梁田郡	古代律令制下のまちづくりと信仰の物語	古代の区画整理・条里跡、足利郡 国府野遺跡、古代の集落、生産遺跡、山の寺・鶏足寺、大岩山、行道山
①②③④⑤	D 足利氏	中世豪族武士団足利氏の統治と文化の物語	足利氏の館から菩提寺となった鏝阿寺、足利氏の廟所として発展した樺崎寺跡、足利氏の祖・八幡太郎義家勧請の八幡宮、足利氏ゆかりの社寺や宝物、足利氏の家臣団の城館跡、鎧年越し
①②③④	E 足利学校	日本最古の総合大学・足利学校と学校を守り伝えてきた人々の物語	史跡足利学校跡、足利学校に伝わる古典籍、釈奠、論語の素読、庠主(校長先生)を輩出した本源寺、浄林寺
①②③	F 交通の要衝	人々の交流と発展の物語	例幣使街道、八木宿と梁田宿、柳原用水と御厨用水、足利藩陣屋跡、猿田河岸跡、奥戸河岸跡、道しるべ、八木節
①②④	G 織物産業	近世から近代にかけて隆盛を極めた足利の織物産業と近代化の物語	織物関連の工場、織姫神社、渡良瀬橋、中橋、足利の花火、市内に残る近代化遺産、
①④⑤	H 田崎草雲	草雲を生みだした足利の芸術文化の物語	草雲のアトリエ・白石山房、草雲の絵画、文人サロン・巖華園、庭園、塾・寺小屋、戦国武将・長尾氏の画業
①④⑤	I 祈り	庶民の手によるさまざまな祈りの物語	神楽、絵馬、石造物、庚申講、富士講、月待講、地藏盆、夏祭り、大岩山悪口祭、井草閻魔堂
①②④⑤	J かかあ天下	足利の歴史を支えた女たちの物語	水使神社と大手神社の絵馬、鏝阿寺蛭子堂、足利銘仙、北条時子の菩提寺・法玄寺、女子教育

保存活用計画の考え方



歴史文化保存活用区域の設定の考え方

・歴史文化保存活用区域設定の視点

- a.多様な関連文化財群を構成する文化財が集中している区域
- b.足利の文化の特性を顕著に表わす重要な文化財が残されている区域
- c.まちづくりの観点から積極的な保存活用に係る取組が期待されている区域
- d.文化財の展示施設や公共交通機関の拠点等があり利便性の高い区域
- e.市全域での市民意識の高揚を促すため、偏りのないようバランスよく設定する。
- f.特に先行した取り組みが期待される区域を歴史文化保存活用重点区域とする。

歴史文化保存活用区域の具体的な範囲の考え方



歴史文化保存活用区域の具体的な範囲の考え方



山並み



中橋



草雲美術館



渡良瀬川



旧木村輸出織物工場



八幡八幡宮